

| 科目名 | | 生涯学習論特殊講義Ⅱ（成人の学習と社会） | |
|-----------------------------|---|----------------------|--------|
| 担当教員 | 永井健夫 | 科目区分 | 選択必修科目 |
| 開講区分 | 後期 | 単位数 | 2単位 |
| 曜日時限 | 火曜・1時限 | 開講年次 | 1年 |
| 到達目標 | 成人の学習の特質と社会的意義について理解を深めること。 | | |
| 授業概要 | 生涯学習は、乳幼児から高齢者まで、全生涯段階の人々がその活動主体となる。その一方、社会の運営に関して最も主要な責任を担うのは成人層である。つまり、社会の維持・発展との関係で生涯学習の意義や方向性を探ろうとする場合、その主要な活動主体としては、第一に成人学習者に注目する必要がある。そして、生涯の発達過程における成人期の意味、成人に特徴的な認知能力、成人期と老年期の関係、現代社会における成人学習の意義、等々について理解しておくことが、生涯学習の具体的展開の方策を考えるうえでの土台となる。この講義では、テキストの読解と意見交換をとおして、これらの論点や課題について検討する。（下記の授業内容・方法は、履修者の数や関心に応じて変更する場合がある。） | | |
| 授業計画 | | | |
| 回数 | 内容 | | |
| 第1回 | 講義の概要説明とテキストの紹介 | | |
| 第2回 | 履修者の問題関心の確認と意見交換 | | |
| 第3回 | 「生涯発達の考え方」 | | |
| 第4回 | 「成熟による発達と学習による発達」①（成熟による発達と経験による発達～学習の生物学的意味） | | |
| 第5回 | 「成熟による発達と学習による発達」②（A Rolling Stone Gathers No Moss～教育による成長・発達） | | |
| 第6回 | 「生涯発達論の歴史的背景」 | | |
| 第7回 | 「生涯発達論の展開」 | | |
| 第8回 | 「知的能力の生涯発達論」 | | |
| 第9回 | 「高齢期における学習支援」 | | |
| 第10回 | 「教育老年学とポジティブ・エイジング論」 | | |
| 第11回 | 「死への準備教育」 | | |
| 第12回 | 「生きがいと自己実現」①（人間的欲求の層位～人間的欲求と自己実現の社会的意味） | | |
| 第13回 | 「生きがいと自己実現」②（限界状況における人間の自己実現～成就価値と自己実現） | | |
| 第14回 | 履修者の問題関心に基づく研究報告と意見交換① | | |
| 第15回 | 履修者の問題関心に基づく研究報告と意見交換② | | |
| 準備学習等 （課題・予習・復習・調査等） | 授業はテキストの読解とそれに基づく意見交換が中心となるので、授業で予定されている部分を事前に読み、そのなかの不明な用語について調べ、関心事項を整理しておくこと。 | | |
| 評価方法・基準 ・講評の方法 | 事前準備の状況と意見交換における積極性(40%)、研究報告の達成度(30%)、まとめのレポートの達成度(30%)をもとに評価する。講評は、適宜、面談またはEメールにより行なう。 | | |
| テキスト・参考書 | （生涯学習論特殊講義Ⅰと同じ）堀薫夫『生涯発達と生涯学習 [第2版]』ミネルヴァ書房、2018年。（税別2,800円） | | |
| 前年度の授業を ふまえた今年度 の授業方針 | 従来どおり、履修者の問題関心を最大限に尊重することに努める。 | | |
| 学生への メッセージ | 「生涯学習」は必ずしも自分の修論テーマと直結しないと思えるかもしれませんが、間接的ながらも関係する論点はあるはずですので、それを探り当てて、自らの研究・考察に活かしていただけると願います。 | | |
| 授業に参考と なるサイト | | | |
| 関連する画像 | | | |
| その他・備考 | | | |